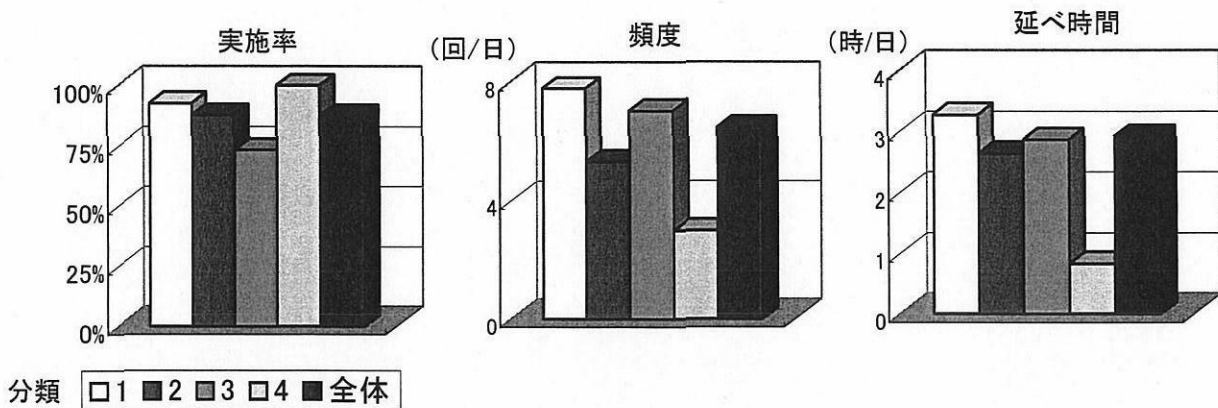


図3 持参薬の管理実施状況

設問 10 入院患者の持参薬を鑑別し、適切な代替薬についての情報を医師に提供している



II-2-2 持参薬管理の実施調査

持参薬の概要について表3に示した。約70%の入院患者が持参薬を有し、そのうち90%の患者が継続服用している。さらに、継続服用するための持参薬の再取り揃えや服用ごとの与薬等患者ごとの対応が求められる。

入院患者の持参薬の服用状況	実施状況	例 200床
1日平均入院患者数/病床数	0.05人	10人/日
持参薬を持って入院する患者の割合	70%	7人/日
持参薬を継続服用する患者の割合	90%	6人/日
持参薬を継続服用する患者のうち薬袋の整理が必要な患者の割合	30~50%	2~3人/日
持参薬を継続服用する患者のうち与薬管理となる患者の割合	10~30%	1~2人/日
内服薬を服用している入院患者のうち、与薬管理をする必要がある患者(麻薬・向精神薬等も含む)	30~50%	40~80人
与薬管理の患者のうち、持参薬を服用している患者	30~70%	13~55人

表3 持参薬の概要

現在、薬剤師による持参薬の管理は十分に行われていない状況にあり、その要因の一つと考えられる所要時間について調査した。表4に薬剤師1名が①持参薬の鑑別、②持参薬の取り扱い、③持参薬の与薬に要する時間を示した。一般に持参薬の鑑別は、1剤に1~2分を要し、薬剤の種類数に依存する。しかし、非採用薬や散剤、無印等の鑑別できない持参薬については、処方した医療機関